

東海健康管理センター 妊娠・授乳中の検査について

	乳がん検査		子宮がん検査	上部消化管検査		その他
	マンモグラフィ	乳腺エコー		胃バリウム	胃カメラ	
妊娠（可能性含む）	× 放射線被曝の観点から実施していません。	○	× 流産のリスクが伴うため、当センターでは実施していません。	× 放射線被曝の観点から実施していません。	× 流産のリスクが伴うため、当センターでは実施していません。	× 胸部レントゲン・骨密度・CT 放射線検査は流産や胎児に奇形を発生させる影響があるため実施していません。 × 肺機能検査 力むことによる流産のリスクがあるため実施していません。
授乳中	× 乳腺が発達しているため、乳房全体が白く写ってしまい正確な診断が困難です。受診者様にとっても、検査による痛みが通常より強くなること、母乳が漏れ出してしまうなどの苦痛が伴うので、当センターでは実施していません。断乳後6ヶ月以降は受けることができます。	○ 検査可能ですが、乳腺が発達しているため、正確な診断が困難です。授乳期を終えて6ヶ月程度経過してからの検査を推奨しております。		○ 下剤はバリウム内に混入しております。使用している下剤（ラキソベロン）は授乳中でも内服することができます。便秘の方は、下剤追加を検討するため検査前にご相談ください。薬液の母乳への影響が気になる方は、検査前に搾乳し、検査後24時間断乳・その母乳は破棄してください。	▲ 使用する薬液の母乳への影響は0ではないため、当センターではお勧めしていません。実施する場合、使用する薬剤は咽頭麻酔（キシロカイン）のみとなります。検査を希望する際は、検査前に搾乳し、検査後24時間断乳・その母乳は破棄してください。	○ 胸部レントゲン・骨密度・CT 母乳への影響はありません。